定 格

項目				
受信周波数範囲	100KHz～2200MHz			
受信モード	AM、NFN、WFM、AUTO			
受信感度		*NFM	WFM	AM
	0.5～2.0MHz	1.5uV	—	2.5uV
	2.0～1500MHz	1.0uV	2uV	1.5uV
* NFM=12dBSINAD、AM=10dBS/N、WFM=-20dBS/N	1500～2000MHz	2.5uV	—	—
周波数ステップ	AM、FM	1KHz、2KHz、3KHz、5KHz、6.25KHz、9KHz、10KHz、12.5KHz、20KHz、25KHz、30KHz、50KHz、100KHz		
	WFM	12.5KHz、30KHz、50KHz、100KHz、200KHz、250KHz、500KHz		
	[FUNC] + [▲/·]、[▼]	1MHz		
メモリー数	チャンネルメモリー	10バンク　各100チャンネル(合計1000チャンネル)		
	スキャンメモリー	10チャンネル		
	パス周波数メモリー	50チャンネル		
	マニュアルデータ	1チャンネル		
	プライオリティ	1チャンネル		
	ビギナー操作時	16チャンネル		
スキャンスピード	約30チャンネル/秒　　約50～60チャンネル/秒(ターボ機能がオン)			
アンテナインピーダンス	50Ω/BNC			
その他の機能	9CHチャンネルスコープ機能 RS232C通信機能 音声反転秘話解読機能 フィルター機能(High Cutフィルター)			
音声出力	約90mW(4.5V 10%THD 8Ω)			
消費電流	約95mA(待ち受け時)、約135mA(50mW時)			
重量	約160g(アンテナ、電池は含みません)			
電源電圧	3.6V(ニッカド電池) 4.5V(乾電池) 9.0～16V(外部電源)　　11～13.8V(ニッカド電池充電時)			
外形寸法	幅62×高116×奥行29mm(突起物は除く)			
動作保証温度	−10℃～+60℃			
周波数安定度	±2PPM(0°～50°)			

ALINCO アルインコ株式会社　電子事業部

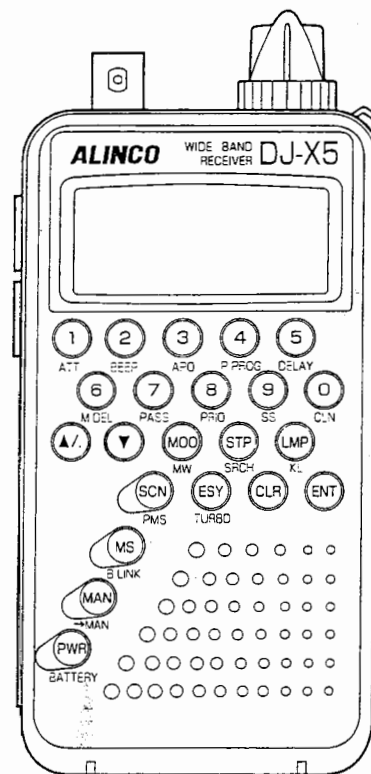
東 京 営 業 所　〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号日本橋プラザビル14階　☎03-3278-5888
大 阪 営 業 所　〒540-8580 大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー25階　☎06-6946-8140
福 岡 営 業 所　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号第3博多偕成ビル7階　☎092-473-8034
札 幌 営 業 所　☎011-231-7712　　名古屋営業所　☎052-212-0541
仙 台 営 業 所　☎022-221-8220　　広 島 営 業 所　☎082-222-0234

お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120-464-007

全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。受付時間／10:00～17:00月曜～金曜(祝祭日は除きます)

PS0313

ALINCO

WIDE BAND COMMUNICATION RECEIVER

DJ-X5

取扱説明書

アルインコワイドバンドレシーバーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本機の性能を充分に発揮させるために、まず、この取扱説明書を最後まで読みいただくようお願いいたします。アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保存しておいてください。

アルインコ株式会社

もくじ

1　ご使用の前にお読みください

2　各部の名称と機能

3　基本操作　～ビギナー操作～

4　応用操作　～エキスパート操作～

1　ご使用の前にお読みください

使用上の注意

次の点に注意してください。

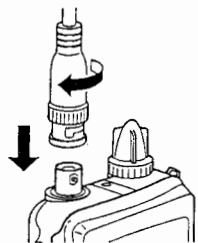
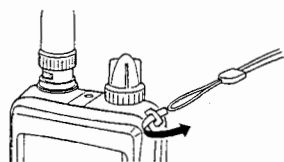
・ケースを外して内部に手を触れないでください。故障の原因となります。
・直射日光にあたる所、ほこりの多い所、暖房器具の近くなどでのご使用、および保管はしないでください。
・付属のアンテナを完全に取り付けてお使いください。
・外部電源には、必ず専用のアクティブフィルター付きシガーライターケーブル(EDC-36)をお使いください。
・万が一、本機から煙が出たり、変な臭いがする場合は、電源スイッチをすばやく切り、速やかに販売店、または最寄りの当社サービス窓口へご連絡ください。
・本機を改造しないでください。無理な改造が原因だと思われる故障などについては、保証期間中であっても、保証対象外となります。また、修理をお断りする場合もありますので、この点、十分にご理解いただけるようにお願いします。
・本機を次のような場所で使う場合には、あらかじめ、管理者などの承認を得る必要があります。

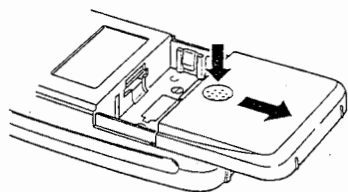
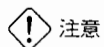
①航空機内　②病院内

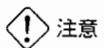
付属品について

本機には、次の付属品が用意されています。梱包を開きましたら、まず、次の付属品が正しく入っていることをお確かめください。

・アンテナ　1
・ハンドストラップ　1
・取扱説明書(本書)　1
・保証書　1

アンテナ、ハンドストラップの取り付け方

[アンテナの取り付け方]
アンテナの根元を持ち、底面の溝と本体のアンテナコネクターの凸部を合わせて差し込みます。アンテナを時計方向(右方向)に回して取り付けます。確実に取り付けられていることを確認してください。

[ハンドストラップの取り付け方]
本機右上にある穴に、図のようにハンドストラップを通して取り付けます。

電池のセット方法

1. 図中に示した位置を強めに押し、そのまま本体下方にずらすようにするとバッテリーカバーが開きます。
2. 市販の単3型乾電池(またはニッカド電池)を、バッテリーケース内に記載されている「＋」と「－」に従ってセットします。
3. バッテリーカバーのツメを本体の溝に合わせ、カチッと音がするまで押します。

 注意

- 電池は同じ種類のものを使用してください。なお長時間、本機を使用される場合は、アルカリ電池を使用することをお勧めします。
- 古い電池と新しい電池を混ぜて使用しないでください。

 注意

乾電池(充電不可)をセットしているときに、外部電源と接続しないでください。誤って接続すると、外部電源端子から乾電池への充電が開始され、乾電池が液もれなどを起こすことがあります。それに伴い、本機も回復不可能な障害を受ける可能性があります。

本機の主な特徴

1. 受信周波数範囲	100kHz～2200MHz
2. 受信モード	AM、NFN、WFM、AUTO
3. 操作の種類	ビギナー操作、マニュアル操作、メモリースキャン(MR)操作、プログラムスキャン(PMS)操作をワンタッチで切替可能
4. メモリー数	
チャンネルメモリー	10バンク　各100チャンネル(合計1000チャンネル)
スキャンメモリー	10チャンネル
パス周波数メモリー	50チャンネル
マニュアルデーター	1チャンネル
プライオリティ	1チャンネル
ビギナー操作時	16チャンネル
5. スキャン機能	メモリースキャン プログラムスキャン プライオリティスキャン
6. スキャンスピード	約30チャンネル/秒　約50～60チャンネル/秒(ターボ機能がオン)
7. プログラムスキャン(PMS)	10組のプログラムスキャンが可能
8. チャンネルスコープ機能	9チャンネルバンドスコープが可能
9. ケーブルクローン機能 パソコンコントロール機能	
10. 周波数ステップ切替	1kHz～500kHzまでの範囲で、周波数ステップが選択可能

2 各部の名称と機能

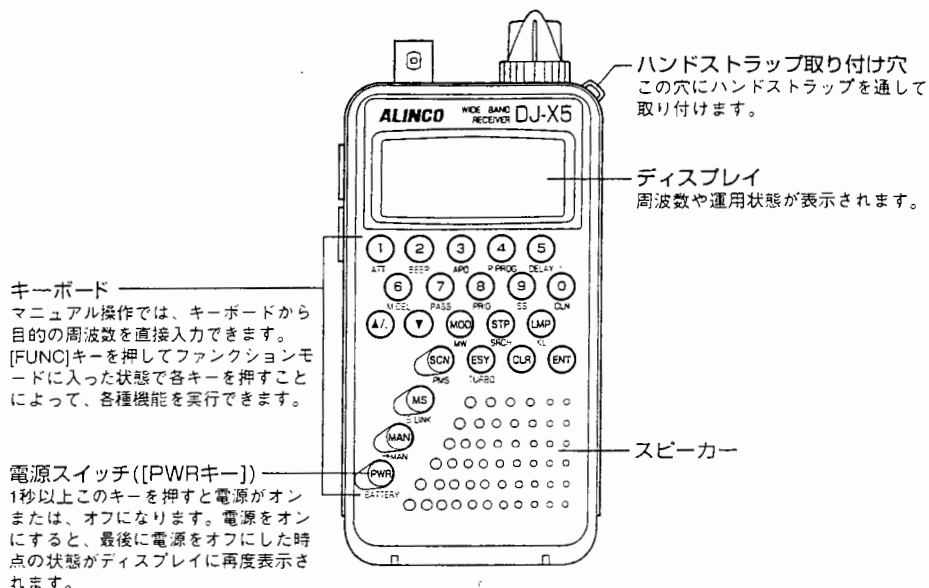
前面部

ハンドストラップ取り付け穴
この穴にハンドストラップを通して取り付けます。

ディスプレイ
周波数や運用状態が表示されます。

キーボード
マニュアル操作では、キーボードから目的の周波数を直接入力できます。
[FUNC]キーを押してファンクションモードに入った状態で各キーを押すことによって、各種機能を実行できます。

スピーカー

電源スイッチ([PWRキー])
1秒以上このキーを押すと電源がオンまたは、オフになります。電源をオンにすると、最後に電源をオフにした時点の状態がディスプレイに再度表示されます。

側面部(アンテナ側)

[FUNC]キー
ファンクションキーと呼びます。１つのキーに２つ以上の機能が割り当てられている場合に使うキーです。
このキーを押すと、ファンクションモードに入り、ディスプレイに「F」が点灯します。この間に他のキーを押すことによって、各種機能を実行できます。

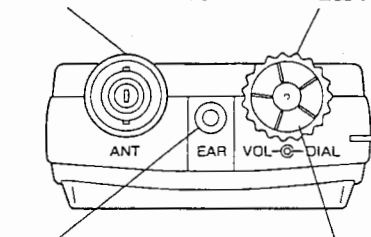
[SQL MONI]キー
このキーを押すと、モニター機能がオンになります。再度、キーを押すとオフになります。
[FUNC]キーを押してファンクションモードに入った状態で、[SQL MONI]キーを押すと、ディスプレイにスケルチレベルが数値で表示されます。ここでスケルチレベルを変更できます。

外部電源端子
12VのDCの外部電源接続用端子です。
ニッカド電池を利用している場合、この端子を利用して充電します。

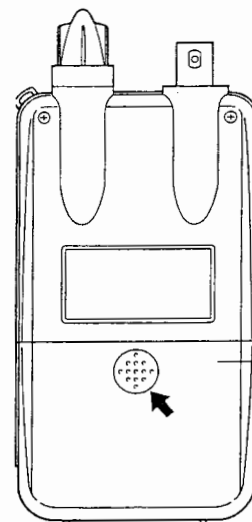
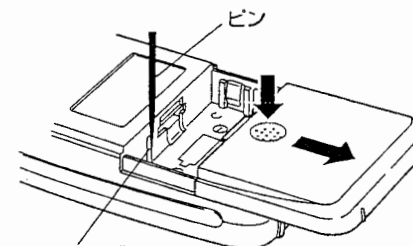
⚠ 注意　乾電池(充電不可)をセットしているときに、外部電源と接続しないでください。誤って接続すると、外部電源端子から乾電池への充電が開始され、乾電池が液もれなどを起こすことがあります。それに伴い、本機も回復不可能な障害を受ける可能性があります。

上面部

アンテナコネクター
付属のアンテナを接続するためのコネクターです。BNCコネクターとなっています。

VOL
左右につまみが回ります。スピーカーの音量を調整します。

EAR端子
外部スピーカー、またはイヤホンを接続するための端子です。

DIAL
左右にダイヤルが回ります。周波数やメモリーチャンネルの切り替え、その他、各種の設定を行います。

背面部

バッテリーケース
単3型乾電池(または、ニッカド電池)が3本入ります。矢印で示している丸くくぼんだ部分を強めに押し、そのまま本体下方にずらすようにするとバッテリーカバーが開きます。

リセットボタン
溝に沿ってピンを差し込み、まっすぐピンを押すと、リセットが開始されます。
この方法でリセットを行うと、本機の設定は出荷時の設定に戻ります。

ニッカド電池について

本機では、市販の単三型ニッカド電池を利用できます。また、本機側面部(アンテナ側)の外部電源接続用端子(DC 12V)を利用すれば、ニッカド電池を充電できます。
ニッカド電池を充電するには次の操作を行います。

1. ニッカド電池3本を本機背面部のバッテリーケースにセットします。
2. 外部電源端子に電源ケーブル(12V)を接続します。
   充電が開始されます。

本書の読み方

● キー表記について

[ENT]キー　　キーは[ ]で囲みます。

[FUNC] → [1]キー　　[FUNC]キーを押した後、ディスプレイに「F」が点灯されている間(ファンクションモード中)に他のキー(ここでは[1]キー)を押すことを意味します。

注意　[FUNC]キーを押したまま、他のキーを押すと正しく動作しないことがあります。

● ディスプレイ表示について

実際には、記載している以外にもキャラクタが表示されていることがありますが、本書では、操作の説明に必要な部分だけを記載しています。

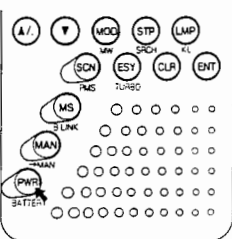
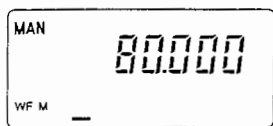
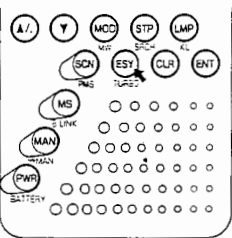
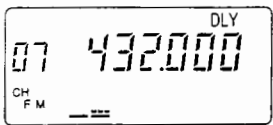
操作可能な機能一覧

ここでは、各キー機能がどの操作で利用できるかを一覧で示しています。○印は実行できることを、×印は実行できないことを示します。
「ビギナー操作」、「マニュアル操作」、「メモリースキャン操作」、「プログラムスキャン操作」については、「3 基本操作　～ビギナー操作～」(P.10)、「マニュアル操作」(P.14)、「メモリースキャン操作」(P.15)、「プログラムスキャン操作」(P.17)を参照してください。

利用するキーまたはダイヤル	ビギナー操作	マニュアル操作	メモリースキャン(MS)操作	プログラムスキャン(PMS)操作
[FUNC]	○	○	○	○
[MONI]	○	○	○	○
[SQL]	○	○	○	○
数字キー入力	×	周波数入力	バンク番号選択	バンク番号選択
[▲/･]	バンク番号選択	周波数を上げる	チャンネル番号を上げる	周波数を上げる
[▼]	バンク番号選択	周波数を下げる	チャンネル番号を下げる	周波数を下げる
[MOD]	×	受信モード	受信モード	受信モード
[STP]	×	STEP	×	STEP
[LMP]	○	○	○	○
[CLR]	入力中クリア	入力中クリア	入力中クリア	入力中クリア
[ENT]	入力中決定	入力中決定	入力中決定	入力中決定
[ATT]	○	○	○	○
[BEEP]	○	○	○	○
[APO]	○	○	○	○
[P PROG]	○	○	○	○
[DELAY]	○	○	○	○
[M DEL]	×	×	○	×
[PASS]	×	パス周波数	パスチャンネル	パス周波数
[PRIO]	○	○	○	○
[SS]	○	○	○	○
[CLN]	×	○	○	○
[MW]	×	○	×	○
[SRCH]	○	○	○	○
[KL]	○	○	○	○
[PMS]	×	○	○	○
[TURBO]	×	○	○	○
[B LINK]	×	×	○	○
[→MAN]	○	×	○	○
[BATTERY]	○	○	○	○
[POWER]	○	○	○	○
[FUNC] → [CLR]	○	○	○	○
[FUNC] → ダイヤル	×	早送り(1MHz)	×	×

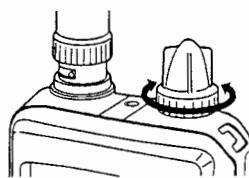
3 基本操作 ～ビギナー操作～

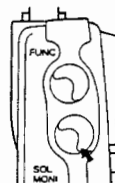
「ビギナー操作」とは、初めて本機を操作される方にお勧めする操作方法です。この操作では、本機の操作に慣れていただくために、各キーの操作範囲を少なくしています。なお、本機に用意されているより多くの機能を使うには、「エキスパート操作」を利用します。エキスパート操作については、「4 応用操作 ～エキスパート操作～」(P.14)を参照してください。

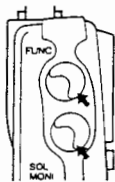
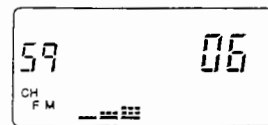
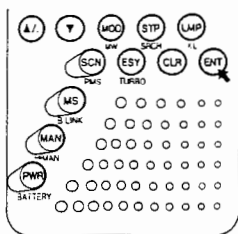
電源の入れ方

1. [PWR]キーを1秒以上押し続けます。
   初めて電源を入れたとき、ディスプレイは次のような表示になります。

ビギナー操作でのスキャン

1. [ESY]キーを押します。
   ビギナー操作以外に設定されているときには、ビギナー操作に入り、スキャンが開始されます。ディスプレイに「DLY」が点灯します。リセット後は、マニュアル操作に設定されています。
   ビギナー操作中は、[▲/·]キー、[▼]キーでバンク番号(P、01～15)を切り替えることができます。

再度、[ESY]キーを押すとスキャンが停止します。スキャン停止中はダイヤルを回して周波数を変更できます。ただし、バンク番号で「P」を選択したときは、ここで周波数の変更はできません。
ビギナー操作中に一時停止した周波数を保持した状態で、マニュアル操作に移行するには、[FUNC] → [MAN]キーを押します。
マニュアル操作については、「マニュアル操作」(P.14)を参照してください。

注意　バンク番号の内容は出荷時にすでに設定されていますので、変更はできません。バンク番号の内容については、「7 付録」(P.37)を参照してください。

音量の設定

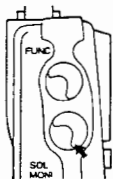
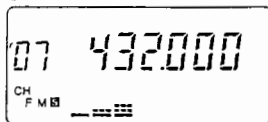
本体の上面部にあるダイヤルの下部にある円形のつまみ(VOL)で音量を調整できます。

● 信号が入っている場合
つまみを右(時計方向)に回すと音量が大きくなります。逆に左に回すと音量は小さくなります。

● 信号が入っていない場合
本体側面部の[SQL MONI]キーを押してから、円形のつまみ(VOL)を右、または左に回します。スピーカーからノイズが出て、音量が確認できます。

スケルチの設定

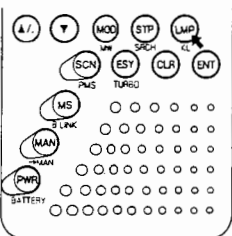
「スケルチ」とは、信号が入ってこないときに、スピーカーからノイズが出ないようにするための機能です。

1. [FUNC] → [SQL MONI]キーを押します。
   スケルチ設定画面が表示されます。
2. ダイヤルを回すか、あるいは[▲/·]キー、[▼]キーを押して、スケルチレベルを変更します。
   [▲/·]キーを押す(ダイヤルを右に回す)と、スケルチレベルが高くなります。逆に、[▼]キーを押す(ダイヤルを左に回す)と、スケルチレベルが低くなります。
   スケルチレベルは、00～16までの範囲で選択できます。
   デフォルトは「08」に設定されています。

3. [ENT]キーを押します。
選択されたレベルのスケルチが設定されます。

メモ　適切なスケルチレベルを選択するには、スケルチレベルが「00」の位置から[▲/·]キーを押して(または、ダイヤルを右に回して)、ノイズが消えるレベル(臨界点)を探してください。スケルチレベルを高く設定し過ぎると、信号が入ってきてもスピーカーから音が出なくなります。逆に、スケルチレベルを低く設定し過ぎると、常時スピーカーからノイズが出ている状態になります。

モニター機能

「モニター機能」とは、信号の弱い電波を受信するための機能です。

1. [SQL MONI]キーを押します。
モニター機能がオンになり、ディスプレイに反転した「S」が点灯します。
モニター機能がオンの状態では、スケルチ機能が解除されるため、弱い信号を受信できるようになります。信号が入っていないときは、ノイズが聞こえます。

再度、[SQL MONI]キーを押すと、モニター機能がオフになります。

ランプ機能

「ランプ機能」とは、ディスプレイやキーを照明で明るく表示する機能です。

1. [LMP]キーを押します。
ディスプレイとキーが照明されます。5秒経過すると、照明は自動的に消えます。

ビープ機能

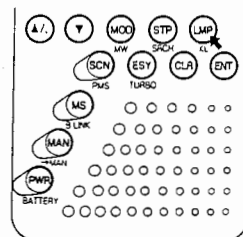
「ビープ機能」とは、キー操作などを行うとビープ音(「ポッ」、「ピー」)が出るようにする機能です。

1. [FUNC] → [2]キーを押します。
ビープ機能が設定されていないときは、オンになります。
デフォルトは、オンに設定されています。
再度、[FUNC] → [2]キーを押すと、ビープ機能がオフになります。

キーロック機能

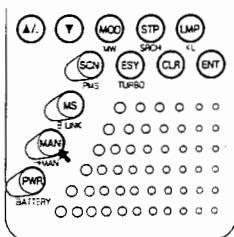
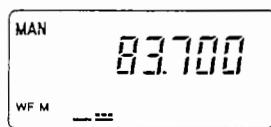
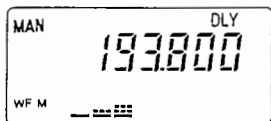
「キーロック機能」とは、本体前面部にあるキーの操作を受け付けなくする機能です。
キーロックをしておくと、誤ってキー操作をすることを防ぐことができます。

1. [FUNC] → [LMP]キーを押します。
キーロック機能がオンになり、ディスプレイに「⊸」が点灯します。

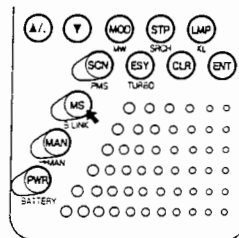
再度、[FUNC] → [LMP]キーを押すと、キーロック機能がオフになります。

4 応用操作 ～エキスパート操作～

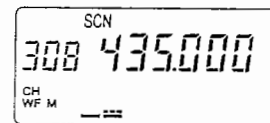
ビギナー操作以外にも、いろいろな応用操作を用意しています。この操作方法をエキスパート操作と呼びます。

マニュアル操作

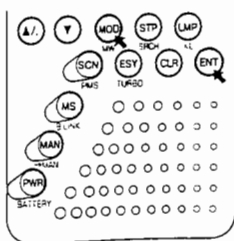
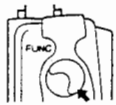
「マニュアル操作」とは、手動で受信周波数を変えながら電波を探す受信方法です。

1. [MAN]キーを押します。
   マニュアル操作以外に設定されているときには、マニュアル操作が開始できる状態になります。デフォルトは、マニュアル操作に設定されています。

2. 再度、[MAN]キーを押します。
   現在表示されている周波数を起点としてスキャンが開始され、ディスプレイに「DLY」が点灯します。

   スキャン中にダイヤルを回すか、あるいは[▲/·]キー、[▼]キーを押してスキャン方向を変更できます。
   再度、[MAN]キーを押すとスキャンが停止します。スキャン停止中は、ダイヤルを回すか、あるいは、[▲/·]キー、[▼]キーを押して、周波数を変更できます。
3. 周波数を[0]～[9]キーで入力します。
   マニュアル操作中は直接周波数を入力できます。[0]～[9]キー、[▲/·]キー(小数点キー)で入力後、[ENT]キーを押します。入力した周波数が設定されます。

メモリースキャン操作

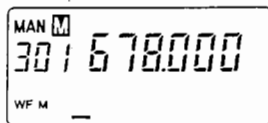
「メモリースキャン操作」とは、よく使う周波数をメモリーに登録しておき、必要なときに、登録した周波数を次々とスキャンしていき、電波があればその周波数を受信する機能です。
100チャンネルごとにバンク別けし、10バンクまで登録できます。メモリースキャン機能を利用するには、スキャンしたい周波数をメモリーに登録しておく必要があります。メモリーへの登録については、「メモリーへの登録」(P.16)を参照してください。

[メモリースキャンの開始・停止]

1. [MS]キーを押します。
   メモリースキャン画面が表示されます。
   メモリーにデーターを登録していない場合は「noch」と表示されます。
2. ダイヤルを回すか、あるいは、[▲/·]キー、[▼]キーを押して、チャンネル番号を変更します。デフォルトは0チャンネルに設定されています。

3. 再度、[MS]キーを押します。
   メモリースキャンが開始され、ディスプレイに「DLY」が点灯します。
   選択したチャンネル番号にメモリーデーターがない場合は「noch」と表示された後、直前のチャンネル番号に戻ります。
   ダイヤルを回して、スキャン方向を変更できます。
   再度、[MS]キーを押すとスキャンが停止します。スキャン停止中は、ダイヤルを回すか、あるいは、[▲/·]キー、[▼]キーを押して、チャンネル番号を変更できます。

   メモ　停止した周波数を保持した状態で、マニュアル操作に移行するには、[FUNC] → [MAN]キーを押します。

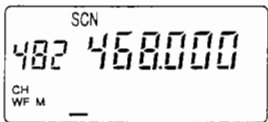
4. バンク番号を[0]～[9]キーで選択します。
   メモリースキャン中に[0]～[9]キーを押すと、バンクを切り替えることができます。
   選択したバンク番号にメモリーデーターがない場合は「noch」と表示された後、直前のチャンネル番号に戻ります。

[メモリーへの登録]

メモリースキャン機能を利用するために、メモリーに周波数を登録します。

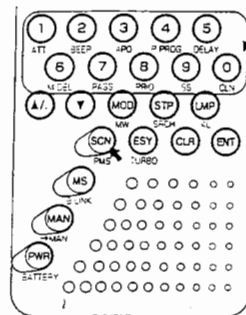
1. マニュアル操作、またはプログラムスキャン操作時にメモリーに登録したい周波数を表示させます。
2. [FUCN] → [MOD]キーを押します。
   メモリー登録画面が表示されます。
3. チャンネル番号を[0]～[9]キーで入力します。
   チャンネル番号は000～999までの範囲で選択できます。最初の1桁はバンク番号です。

4. [ENT]キーを押します。
   メモリーに、指定したチャンネル番号で周波数が登録されます。

[登録内容の消去]

メモリーに登録した周波数を消去します。

1. [MS]キーを押します。
   メモリースキャン画面が表示されます。
2. ダイヤルを回すか、あるいは、[▲/·]キー、[▼]キーを押して、消去したい周波数が登録されているチャンネル番号を選択します。

3. [FUCN] → [6]キーを押します。
   選択した周波数が、メモリーから消去されます。

プログラムスキャン操作

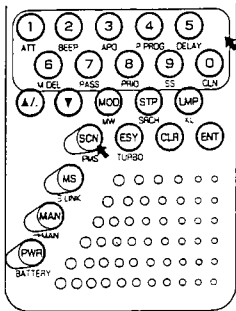
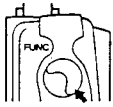
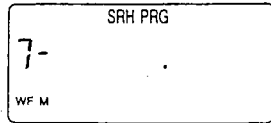
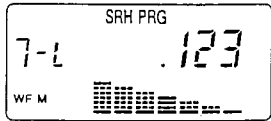
「プログラムスキャン操作」とは決められた範囲内の周波数帯でスキャンをする機能です。10バンクまで設定できます。
プログラムスキャン操作を利用するには、スキャンしたい周波数の範囲(上限と下限)をプログラムに登録しておく必要があります。プログラムへの登録については、「プログラムへの登録」(P.18)を参照してください。

[プログラムスキャンの開始・停止]

1. [SCN]キーを押します。
   最後に使用したチャンネル番号でプログラムスキャンが開始されます。デフォルトは0チャンネルに設定されています。また、プログラムにデーターを登録していない場合は「noch」と表示されます。
2. チャンネル番号を[0]～[9]キーで選択します。
   選択したチャンネル番号でプログラムスキャンが開始されます。

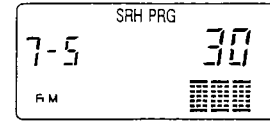
選択したチャンネル番号にプログラムデーターがない場合は「noch」と表示された後、直前のチャンネル番号に戻ります。
再度、[SCN]キーを押すとスキャンが停止します。スキャン停止中は、ダイヤルを回すか、あるいは、[▲/·]キー、[▼]キーを押して、周波数を変更できます。

メモ　停止した周波数を保持した状態で、マニュアル操作に移行するには、[FUNC] → [MAN]キーを押します。

[プログラムへの登録]

プログラムスキャンを利用するために、上限と下限の周波数などをプログラムに登録します。

1. [FUCN] → [SCN]キーを押します。
   プログラムスキャン画面が表示されます。
2. チャンネル番号を[0]〜[9]キーで入力します。
   チャンネル番号は、0〜9までの範囲で選択できます。

3. [ENT]キーを押します。
   チャンネル番号が設定されます。
4. スキャンしたい周波数帯の下限の周波数を[0]〜[9]キーで入力します。

5. [ENT]キーを押します。
   下限の周波数が設定されます。
6. スキャンしたい周波数帯の上限の周波数を[0]〜[9]キーで入力します。

7. [ENT]キーを押します。
   上限の周波数が設定されます。
8. ダイヤルを回して、スキャンしたい受信モードを選択します。
   受信モードは、WFM、FM、AMから選択できます。

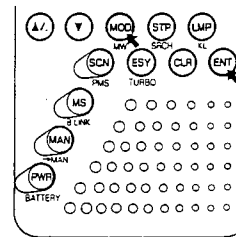
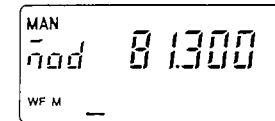
9. [ENT]キーを押します。
10. ダイヤルを回すか、あるいは、[▲/·]キー、[▼]キーを押して、スキャン時の周波数ステップを設定します。

11. [ENT]キーを押します。
    設定内容がプログラムに登録されます。

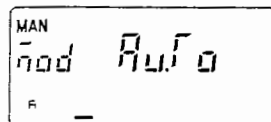
注意　手順8.で選択した受信モードによって、選択できる周波数ステップは異なります。

[プログラムの消去]

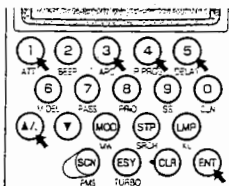
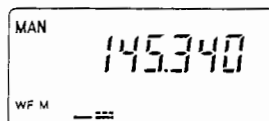
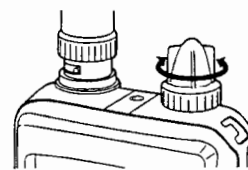
メモリーに登録した内容を残したまま、プログラムに登録した周波数などの設定を消去します。
操作方法については、「リセット時に、メモリーの内容を維持する操作」(P.34)を参照してください。

受信モードの切り替え

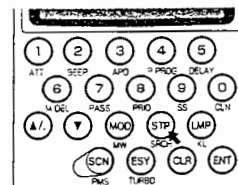
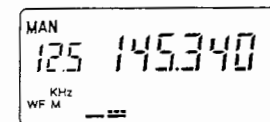
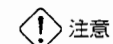
「受信モード」には、WF M、FM、AM、A(AUTO)の4種類があります。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

1. [MOD]キーを押します。
   受信モード設定画面が表示されます。

2. ダイヤルを回すか、[▲/·]キーまたは[▼]キーを押して、選択したい受信モードを表示させます。
次の順で受信モードは変わります。
WF M ⇄ FM ⇄ AM ⇄ A

「A」は「AUTO」モードを表します。このモードを選択した場合、受信周波数に応じて、受信モードとステップ周波数が自動的に設定されます。

3. [ENT]キーを押します。
受信モードが設定されます。

受信周波数の設定

「受信周波数」は、キーやダイヤルを使って設定できます。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

● テンキー([0]～[9]キー)を使う場合
「145.340MHz」を受信したい場合、次の操作を行います。
1. 「1」「4」「5」「▲/.」「3」「4」の順にキーを押します。
2. [ENT]キーを押します。
受信周波数が設定されます。
最後の「0」は[ENT]キーを押すと自動的に入力されます。

● [▲/·]キーと[▼]キーを使う場合
[▲/·]キーを押すと周波数が高くなり、[▼]キーを押すと周波数が低くなります。
周波数の移動は周波数ステップに従います。周波数ステップを変更するには、「周波数ステップの変更」(P.21)を参照してください。

● ダイヤルを使う場合
ダイヤルを右(時計方向)に回すと周波数は高くなります。逆に、左に回すと周波数は低くなります。
ダイヤルの早送り機能を使うと1MHz単位で周波数を変更できます。ダイヤルの早送り機能については、「ダイヤル早送り機能」(P.24)を参照してください。

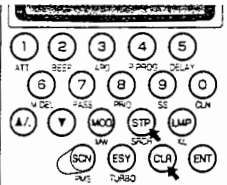
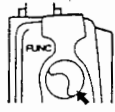
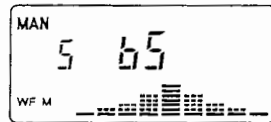
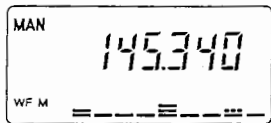
周波数ステップの変更

「周波数ステップ」とは、ダイヤルあるいは、[▲/·]キーまたは[▼]キーを押したときに、次の周波数に移行する周波数の幅を指します。1kHz～500kHzの周波数ステップが用意されていますので、必要に応じて変更できます。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

1. [STP]キーを押します。
現在設定されている周波数ステップの値が表示されます。
2. ダイヤルを回すか、あるいは[▲/·]キーまたは[▼]キーを押して、周波数ステップを選択します。

3. [ENT]キーを押します。
周波数ステップ数が設定されます。

注意　受信モードによって、選択できる周波数ステップは異なります。また、受信モードで「AUTO」(A)を選択していれば、受信周波数に応じて周波数ステップが自動的に設定されます。
受信モードについては、「受信モードの切り替え」(P.19)を参照してください。

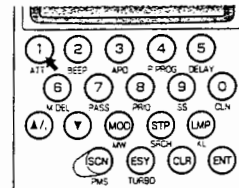
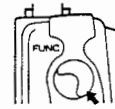
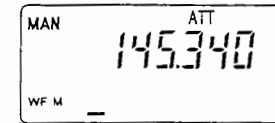
チャンネルスコープ機能

「チャンネルスコープ機能」とは、9チャンネル分の受信信号強度を表示させる機能です。9チャンネル分のチャンネルスコープがバーで表示されます。受信信号の強度が中央に、周辺の信号の強度がその左右に表示されます。動作間隔時間を1〜10秒までの間隔で設定できます。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

注意　この機能を動作させると、プライオリティ機能は解除されます。
プライオリティ機能については、「プライオリティ機能」(P.26)を参照してください。

注意　この機能を動作させると、周辺の信号チェックの瞬間、受信音が途切れます。

1. [FUNC] → [STP]キーを押します。
   チャンネルスコープの動作間隔時間設定画面が表示されます。

2. ダイヤルを回すか、あるいは、[▲/·]キー、[▼]キーを押して、スコープ動作間隔時間を選択します。
   スコープ動作間隔時間は、1〜10までの範囲で選択できます。
3. [ENT]キーを押します。
   スコープ動作間隔時間が設定され、チャンネルスコープが表示されます。
   受信信号の強度が中央に、周辺の信号の強度がその左右に表示されます。

チャンネルスコープの動作間隔時間設定画面が表示されているときに、[CLR]キーを押すと、チャンネルスコープの表示がオフになります。

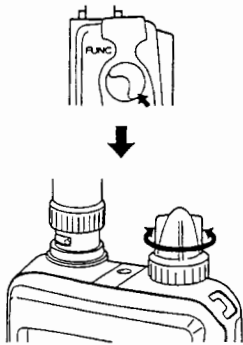
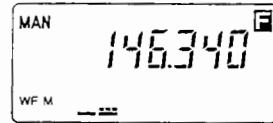
アッテネータ機能

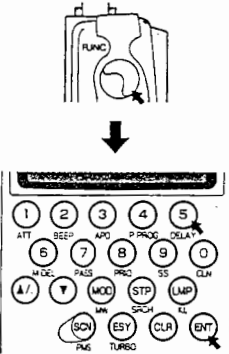
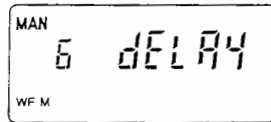
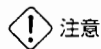
「アッテネータ機能」とは、受信している信号が他のチャンネルの強力な信号で影響を受けている場合に、その影響を軽減する機能です。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

1. [FUNC] → [1]キーを押します。
   アッテネータ機能がオンになり、ディスプレイに「ATT」が点灯します。

再度、[FUNC] → [1]キーを押すとアッテネータ機能がオフになります。

キーロック機能

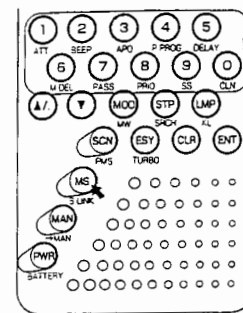
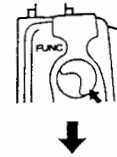
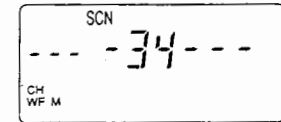
この機能は、「3 基本操作　〜ビギナー操作〜」で紹介した「キーロック機能」と同じ機能です。
エキスパート操作でもこの機能を利用できます。
詳細については、「3 基本操作　〜ビギナー操作〜」の「キーロック機能」(P.13)を参照してください。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

ダイヤル早送り機能

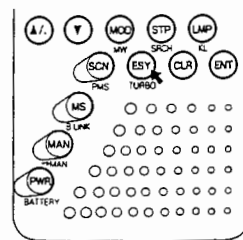
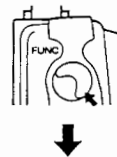
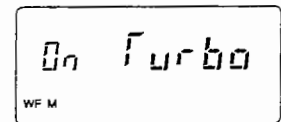
「ダイヤル早送り機能」とは、1MHz単位で周波数を早送りする機能です。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

1. [FUNC]キーを押して、ディスプレイに「F」が表示されている間(ファンクションモード中)にダイヤルを回します。
   1MHz単位で周波数が早送りされます。
   ファンクションモード中に[▲/·]キーまたは、[▼]キーを押しても同様の操作ができます。

ディレイ時間設定機能

「ディレイ時間設定機能」とは、スキャン中に信号が入ったために一時的に停止されたスキャンを、一定時間後に自動的に再スタートさせる機能です。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

1. [FUNC] → [5]キーを押します。
   ディレイ時間設定画面が表示されます。
2. ダイヤルを回すか、あるいは[▲/·]キー、[▼]キーを押して再スタートまでの秒数を設定します。
   ディレイ時間は、1〜10秒までの範囲で選択できます。

3. [ENT]キーを押します。
   ディレイ時間が設定されます。

注意　ディレイ機能を設定したくない場合は、手順2.で0秒を選択します。この設定では一時的に停止されたスキャンは、自動的には再スタートすることはありません。再スタートさせたい場合はダイヤルを回すか、[▲/·]キー、[▼]キーを押して操作します。

バンクのリンク機能

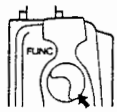
「バンクのリンク機能」とは、複数のバンク番号を連続してスキャンする機能です。プログラムスキャンとメモリースキャン操作時に設定できます。

1. [FUNC] → [MS]キーを押します。
   バンクリンク画面が表示されます。
2. 連続してスキャンさせたいバンク番号を[0]〜[9]キーで選択します。
   バンク番号3と4をリンクさせたい場合は、「3」、「4」の順に入力します。

3. [ENT]キーを押します。
   選択したバンク番号がリンクされ、連続してスキャンできるようになります。

ターボ(高速スキャン)機能

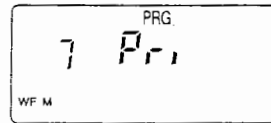
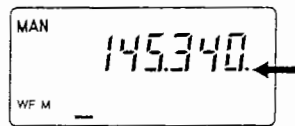
「ターボ(高速スキャン)機能」とは、スキャンのスピードを高速にする機能です。スピードは、最大、約2倍まで高速化できます。広い範囲を高速にスキャンしたいときに使います。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

1. [FUNC] → [ESY]キーを押します。
   ターボ(高速スキャン)機能がオンになり、ディスプレイに「ON Turbo」が1秒間点灯します。

再度、[FUNC] → [ESY]キーを押すとターボ機能はオフになり、ディスプレイに「OFF Turbo」が1秒間点灯します。

プライオリティ機能

「プライオリティ機能」とは、スキャン中に特定の周波数を優先して、一定間隔で受信する機能です。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

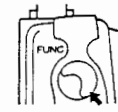
注意　チャンネルスコープ機能を動作させると、プライオリティ機能は解除されます。
チャンネルスコープ機能については、「チャンネルスコープ機能」(P.22)を参照してください。

1. 優先的に受信したい周波数をディスプレイに表示させます。

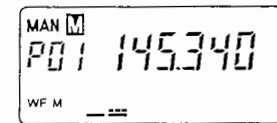
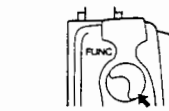
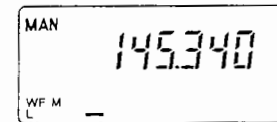
   メモ　ビギナー操作時は、表示されている周波数に関係なく、あらかじめ設定されているP周波数になります。

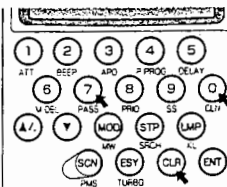
2. [FUNC] → [4]キーを押します。
   受信間隔設定画面が表示されます。
3. ダイヤルを回すか、あるいは[▲/·]キー、[▼]キーを押して、受信間隔を設定します。
   受信間隔は、1～20秒までの範囲で選択できます。デフォルトは、5秒に設定されています。

4. [ENT]キーを押します。
   優先的に受信する周波数と、受信間隔時間が設定されます。
5. [FUNC] → [8]キーを押します。
   プライオリティ機能がオンになり、ディスプレイに「Pri」とプライオリティ周波数が1秒間点灯します。オンの状態では常にkHzの桁位置に小点が点灯します。

再度、[FUNC] → [8]キーを押すと、プライオリティ機能はオフになり、kHzの桁位置に点灯していた小点が消えます。

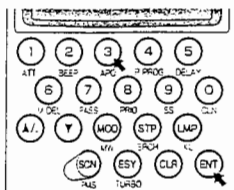
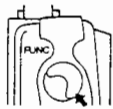
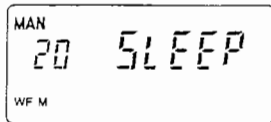
パス機能

「パス機能」とは、スキャン実行中に、あらかじめ設定した周波数をパスして(無視して)スキャンする機能です。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

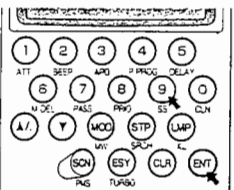
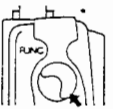
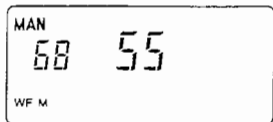
注意　ビギナー操作実行中はパス設定は行えませんが、いったん設定されたパス周波数は全ての操作のスキャンで有効です。

[パスの設定]

1. パスしたい周波数を表示させます。
2. [FUNC] → [7]キーを押します。
   パス周波数設定画面が表示されます。ディスプレイに点灯している「P」の後の数字は、パス周波数を書き込める空のチャンネル番号です。

3. [ENT]キーを押します。
   空いているパスメモリーに周波数が登録され、ディスプレイに「L」が点灯します。

[パス設定の解除]

1. [FUNC] → [7]キーを押します。
   パス周波数設定画面が表示されます。
2. [CLR]キーを押します。
   設定されているパスが表示されます。
3. ダイヤルを回すか、あるいは[▲/·]キー、[▼]キーを押して、解除したいパスを選択します。
4. [0]キーを押します。
   選択したパスが解除されます。

オートパワーオフ機能

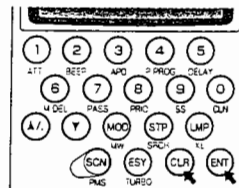
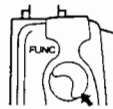
「オートパワーオフ機能」とは、設定時間後に電源が自動的にオフになる機能です。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

1. [FUNC] → [3]キーを押します。
   オートパワーオフ設定画面が表示されます。
2. ダイヤルを回すか、あるいは[▲/·]キー、[▼]キーを押して、時間を設定します。
   時間は、10分～120分までの範囲で選択できます。

3. [ENT]キーを押します。
   選択した時間でオートパワーオフ機能が設定されます。

秘話解読機能

「秘話解読機能」とは、特定小電力トランシーバなどで使われている、音声反転型秘話通信を復調する機能です。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

1. [FUNC] → [9]キーを押します。
   復調周波数画面になります。
2. ダイヤルを回すか、あるいは[▲/·]キー、[▼]キーを押して、最も受信音が明瞭になる復調周波数を設定します。
   復調周波数は、1～82までの範囲で選択できます。

3. [ENT]キーを押します。
   秘話解読機能がオンになります。

   復調周波数画面が表示されているときに、[CLR]キーを押すと、秘話解読機能がオフになります。

フィルター機能

「フィルター機能」とは、急峻な特性のフィルターを起動させることによって、JRの空線信号などのビート信号を軽減する機能です。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

[フィルター機能の設定]
1. [FUNC] → [CLR]キーを押します。
   フィルター画面が表示されます。

2. [ENT]キーを押します。
   フィルター機能がオンになります。

[フィルター機能の解除]
1. [FUNC] → [CLR]キーを押します。
   フィルター画面が表示されます。
2. [CLR]キーを押します。
   フィルター機能がオフになります。

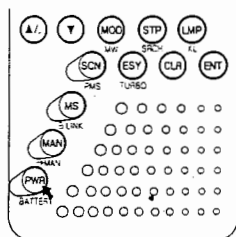
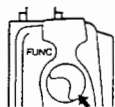
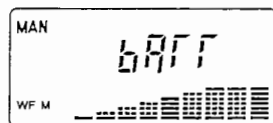
モニター機能

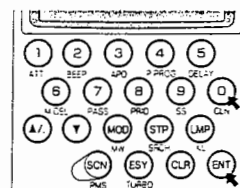
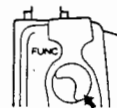
この機能は、「3 基本操作 ～ビギナー操作～」で紹介した「モニター機能」と同じ機能です。
エキスパート操作でもこの機能を利用できます。
詳細については、「3 基本操作 ～ビギナー操作～」の「モニター機能」(P.12)を参照してください。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

ランプ機能

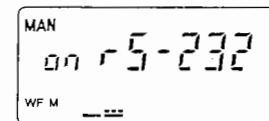
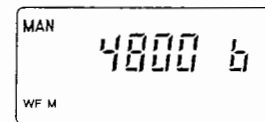
この機能は、「3 基本操作　～ビギナー操作～」で紹介した「ランプ機能」と同じ機能です。エキスパート操作でもこの機能を利用できます。
詳細については、「3 基本操作　～ビギナー操作～」の「ランプ機能」(P.12)を参照してください。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

電池電圧表示機能

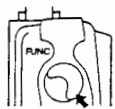
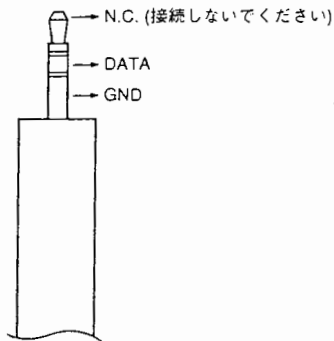
「電池電圧表示機能」とは、本機にセットされた電池の電圧を表示させる機能です。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

1. [FUNC] → [PWR]キーを押します。
   電池電圧表示画面が表示されます。
   ここで、電池の電圧が確認できます。電圧のバーレベルが低くなっている場合は、電池を交換するか、ニッカド電池を充電してください。

クローン機能

「クローン機能」とは、本機のメモリーデーターを外部機器(PC または、他の X5)にコピーする機能です。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

● 本機とPCを接続する場合

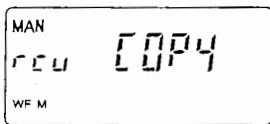
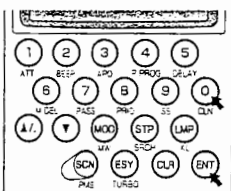
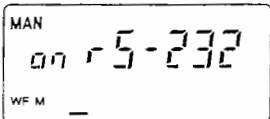
1. 本機上面部のEAR端子と、PCのRS232CをPCインターフェースケーブル ERW-4Cで接続します。
2. [FUNC] → [0]キーを押します。
   クローン設定画面が表示されます。
3. ダイヤルを回すか、あるいは[▲/·]キー、[▼]キーを押して、「19200b」、「9600b」、「4800b」の中から、いずれかのボーレートを選択します。

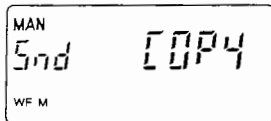
4. [ENT]キーを押します。
   PCコントロール画面が表示され、PCコントロールモードになります。

[CLR]キーを押すと、PCコントロールモードが解除されます。

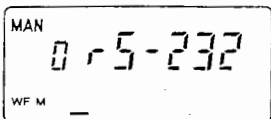
● 2台のX5どうしを接続する場合

1. それぞれのX5のEAR端子に、クローン3.5 φ ステレオプラグを接続します。
ステレオプラグは次のように接続してください。

2. それぞれのX5で、[FUNC] → [0]キーを押します。
クローン設定画面が表示されます。
3. データーを受ける側のX5で、ダイヤルを回すか、あるいは[▲/·]キー、[▼]キーを押して、「rcv COPY」を選択します。

4. [ENT]キーを押します。
データーが受信できる状態になります。

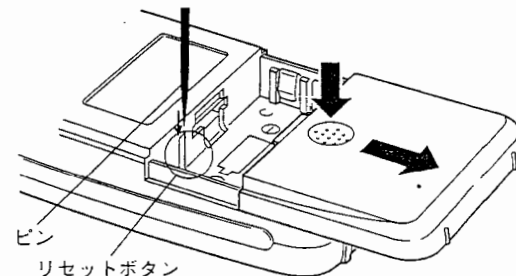
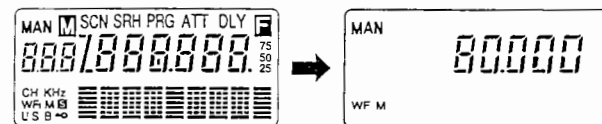
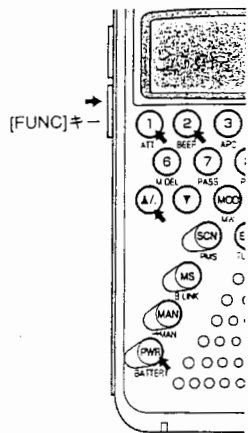
MAN
on rS-232
WF M

5. データーを送る側のX5で、手順3.と同様の操作で「Snd COPY」を選択します。

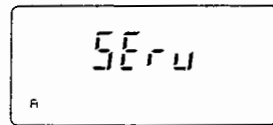
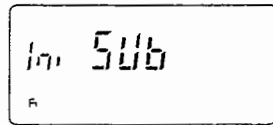
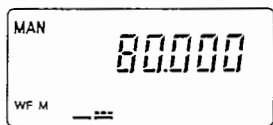
MAN
Snd COPY
WF M

6. [ENT]キーを押します。
データーのコピーが開始されます。左端の数字のカウントアップが停止したらコピーが完了です。

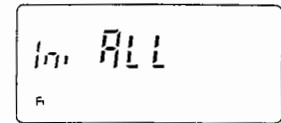
MAN
0 rS-232
WF M

リセット機能

「リセット機能」とは、本機が正常に動作しなくなった場合に、本機をリセットする機能です。
CPUがリセットされ正常な状態に戻ります。リセット機能には、次の3種類の操作方法があります。目的に応じて使い分けてください。
この機能が利用できる「操作」の種類については、「操作可能な機能一覧」(P.9)を参照してください。

[リセット時に、設定を出荷時の設定に戻す操作]

1. 電源をオンにした状態で、バッテリーカバーを開けます。
2. 図のように、溝に沿ってピンを差し込み、まっすぐピンを押します。

リセットが開始されます。終了すると、ディスプレイには全点灯のパターンが一瞬表示され、その後、本機の電源を初めてオンにしたときの画面が表示されます。本機の設定は出荷時の設定に戻ります。

3. バッテリーカバーを元に戻します。

[リセット時に、メモリーの内容を維持する操作]

1. 電源をオフにします。
2. [FUNC]キーと[▲/·]キーを同時に押しながら、電源をオンにします。
   セットアップ画面が表示されます。
3. [2]キーを押します。
   ディスプレイに「Ini Sub」が点灯します。

4. [ENT]キーを押します。
   リセットが開始されます。ディスプレイには、全点灯のパターンが表示され、セットアップ画面に戻ります。
5. 電源をいったんオフにし、再度オンにします。
   メモリーの内容以外は出荷時の設定に戻ります。ディスプレイには、本機の電源を初めてオンにしたときの画面が表示されます。

[リセット時に、メモリーの内容を全て削除する操作]

1. 前述した「リセット時に、メモリーの内容を維持する操作」の手順1.と2.を行います。
2. [1]キーを押します。
   ディスプレイに「Ini ALL」が点灯します。
3. [ENT]キーを押します。
   リセットが開始されます。ディスプレイには、全点灯のパターンが表示され、セットアップ画面に戻ります。
4. 電源をいったんオフにし、再度オンにします。
   メモリーの内容が全て削除されます。また、それ以外の設定も出荷時の設定に戻ります。
   ディスプレイには、本機の電源を初めてオンにしたときの画面が表示されます。

5 メンテナンスについて

アフターサービス

次の項目をよくお読みください。

保証書　記載内容、および所定事項(ご購入販売店名、ご購入日)が正しく記入されていることを必ずお確かめの上、大切に保管してください。

保証期間　保証期間はお買い上げの日より1年間です。正常にご使用したにも関わらず、この期間内に万が一故障が生じた場合は、誠にお手数ですが製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。保証書の規定に従って修理致します。

保証期間経過後の修理　保証期間経過後の修理につきましては、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料で修理致します。

アフターサービスについてご不明な点がございましたら、お買い上げいただいた販売店または、当社サービス窓口にご相談ください。

故障かなと思ったら

症　状	考えられる原因	処　置
電源スイッチを1秒以上押しても、ディスプレイに何も表示されない。	電源が正しく入っていない。	・電池の「＋」と「−」を確認し、電池をセットし直します。 ▶「電池のセット方法」(P.4) ・新しい乾電池と交換します。▶「電池のセット方法」(P.4) ・バッテリー端子の汚れを落とします。 ・ACアダプタを正しく接続し直します。
スピーカーから音が出ない。	・ボリュームの調整が不適切。 ・スケルチの調整が不適切。	・音量調整のつまみ(VOL)を右方向(時計方向)に回し、音量を上げます。▶「音量の設定」(P.11) ・スケルチレベルを調整します。▶「スケルチの設定」(P.11)
受信できない。	アンテナが確実に取り付けられていない。	アンテナを確実に取り付けます。▶「アンテナの取り付け方」(P.4)
ボタンが動作しない。	キーロックされている。	キーロックを解除します。▶「キーロック機能」(P.13)
スキャンが実行されない。 ・「noch」と表示される。 ・「DLY」が消えている。	・メモリー周波数が登録されていない。 ・プログラム周波数が登録されていない。 スキャンが一時的に停止されている。	・メモリー周波数を登録します。 ▶「メモリーへの登録」(P.16) ・プログラム周波数を登録します。 ▶「プログラムへの登録」(P.18) ・スキャンの一時停止を解除して「DLY」を点灯させます。 ▶「メモリースキャンの開始・停止」(P.15) ▶「プログラムスキャンの開始・停止」(P.17)
突然、電源が切れる。	電池が消耗している。	・電池を新品と交換します。▶「電池のセット方法」(P.4) ・ACアダプターを使います。

6 オプション

本機には、次のようなオプションがあります。

EDC-36	アクティブフィルター付きシガーライターケーブル	¥2,000
EME 6	プチ型イヤホン	¥1,500
EDC-37	DCケーブル	¥800
EDC-75	ACアダプター	¥2,000
ERW-4C	RS232Cインターフェースケーブル(D-SUB 9ピン)	¥3,000

7 付録

ビギナー操作での周波数範囲と周波数ステップ

バンク番号	主な無線局名	周波数範囲(MHz)	周波数ステップ(kHz)
1	FM放送	076.0000〜090.0000	100
2	ワイヤレスマイク	797.1250〜809.2500	12.5
3	エアーバンド VHF	118.0000〜136.0000	25.0
4	エアーバンド UHF	255.0000〜329.0000	100
5	救急・消防	146.0000〜154.6100	10.0
6	タクシー・簡易業務	450.0215〜451.5000	12.5
7	アマチュア VHF	144.0000〜146.0000	10.0
8	アマチュア UHF	430.0000〜440.0000	10.0
9	MCA	850.0125〜859.9875	6.25
10	パーソナル無線	903.0375〜904.9875	12.5
11	国際VHF（船舶）	156.0000〜157.4250	25.0
12	コードレス	380.2125〜381.3125	12.5
13	防災無線 VHF	054.0200〜074.4750	5.0
14	防災無線 UHF	465.7500〜469.9750	12.5
15	自動車/携帯電話	860.0125〜884.9875	6.25
P	スピード取締連絡用	350.1000	プライオリティ